

『バスケで日本を元気に』の理念を実現するために

日本バスケットボール協会は、暴力暴言を始めとする、すべてのハラスメントのないバスケ界を目指し「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム～暴力暴言根絶～」という新たなメッセージを掲げた。

これは、昨年末に立ち上げられたインテグリティ委員会による提案。インテグリティとは「誠実さ」、「真摯さ」、「高潔さ」。バスケ界にはびこるハラスメントの問題をなくし、『バスケで日本を元気に』の理念を実現するのが目的だ。

スポーツ界では昨年から不祥事、ハラスメント問題が次々と噴出した。指導者の問題(体罰行為)、プレーヤーの問題(暴力行為や賭博行為)、組織や役員の問題(ガバナンス問題)と問題は多く、バスケ界でも2012年に部員に自殺者を出す桜宮高校バスケ部事件が起きている。また、これまで啓蒙活動が行われてきたにもかかわらず、全国大会の舞台でもコート上の暴言はしばしば確認できたのが現実だ。

では、『暴力暴言根絶』のために、試合で具体的に何が行われるのか。レフェリー向けのガイドラインに『ゲーム中のコーチによるプレーヤーへの暴言、暴力的行為に対する対応方針』が付け加えられた。コーチの暴力的行為および暴言といった振る舞いに対しては、「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」の観点からテクニカルファウルとする。コーチのテクニカルファウルが2度になれば失格退場とする。このルールは以前から変更されたものではないが、『適用の徹底』が通達された。

『テクニカルファウルの対象となる振る舞い』として挙げられている具体例を引用する。

1. コーチのプレーヤーに対する暴言

(1) 人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉 最低、クズ、きもい、邪魔、出でていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様

(2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉 役立たず、下手くそ、アホ、バカ

(3) 身体的特徴をけなす言葉

〈具体例〉 チビ、デブ

(4) 恐怖感を与える言葉

〈具体例〉 段るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

2. コーチの暴力的(攻撃的・虐待的含む)振る舞い(行動・行為)

(1) 段る・蹴るなどを連想させる行為

(2) プレーヤーと近接(顔の目の前、腕一本分より近い距離)して高圧的威圧的に指導する行為

(3) 「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的、威嚇的に指導する行為

(4) 繰り返す、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

(5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

3. 第三者が不快と感じる振る舞い(行動・行為)

(1) 不潔な服装、裸足やスリッパでの指導